

平成24年7月教育委員会会議（定例会）会議録

- 1 日 時 平成24年7月25日（水）午後1時30分～午後2時46分
- 2 場 所 所沢市役所6階 602会議室
- 3 出席者 [委員] 富田常世委員長、守谷靖委員長職務代理者、京谷圭子委員、
吉本理委員、佐藤徳一教育長
[事務局] 山寄裕司教育総務部長、平塚俊夫学校教育部長、斉藤雅
裕教育総務部次長、則武辰夫生涯学習担当参事兼生涯学習推進
センター所長、村川裕昭教育センター担当参事兼教育センター
所長、北健志教育総務課長、北田賢司教育施設課長、内堀耕介
スポーツ振興課長、富田一成文化財保護課長、仲法寛所沢図書館
館長、市川雅美教育総務課主幹兼教育企画室長、沼田芳行学校
教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、細山俊男生涯
学習推進センター副主幹、阿部美和子保健給食課副主幹、佐藤
尊之社会教育課主査
[書記] 大部稔之教育総務課主査、鈴木明彦教育総務課副主幹
- 4 前回会議録の承認
- 5 会議の傍聴者 なし
- 6 開 会 本日の議案は、議案第10号と議案第11号の2件、及び追加議案
第12号の1件の合計3件。
議案第11号「平成24年度教育費予算（9月補正）について」は、
予算に関する審議のため、また議案第12号「所沢市教育委員会委
員の辞職について」は人事に関する審議のため非公開とすることと
したい旨の発議があり、出席委員全員が賛成し、非公開で審議され
ることに決定した。
- 7 議 題

● 議案第10号 所沢市生涯学習推進センター条例施行規則の一部を改正する
規則制定について

資料に則り、則武生涯学習担当参事から説明がなされた。

以下、質疑。

(吉本委員)

様式の変更に関しましては特に問題はないのですが、コンピュータシステムを導入して、外部からも申し込みができるようになったということですが、そのランニングコストや年間の使用料はどのくらいでしょうか。ランニングコストの方が高いというようなことはないですね。

(則武生涯学習担当参事)

必要経費に関してですが、これは全くの新規に導入するものではなく、既存のシステムに加わるということでございます。ただし、新たに発生する経費としまして予算を266万円程計上してございます。内訳といたしましては、予約システム修正委託料が170万円、今年度は年度途中の10月分からということになります。その機器の借料が発生し、その他、消耗品等がございまして全体といたしまして266万円を見込んでおります。

(吉本委員)

使用料というのは年間どれくらいの収入になるのですか。

(則武生涯学習担当参事)

これは施設使用料の収入ということでよろしいでしょうか。

(吉本委員)

はいそうです。

(則武生涯学習担当参事)

新システムを導入することによって、どれくらい利用が増えるかということは見込んでおりません。これによって提供する施設は5室ですので、稼働率が向上することは考えられるのですが、歳入としての使用料が飛躍的に上がるということは考えられないと思います。

なお、ただいまの歳入についての資料が手元になく、申し訳ございません。

(吉本委員)

コスト意識を持って進めていただくようよろしくお願いします。

(京谷委員)

これまでの使用料はどれくらいになっていますか。

(則武生涯学習担当参事)

ただいま手持ちの資料がなく、申し訳ございません。

(山寄教育総務部長)

ただいまのご質問で資料がなかった分につきましては、至急調べさせていただきますので、わかり次第その時点でご報告させていただきます。

(冨田委員長)

コンピュータでの申し込みにより、操作が得意ではないお年寄り等が受付に向いて申し込む場合、不利は生じないのですか。例えば、自宅のパソコンで申し込んだ方が早く予約でき、自宅でできない方は遅くなってしまいうことは考えられますか。

(則武生涯学習担当参事)

今回導入を予定しておりますものは、公民館等で使用している予約システムと完全に一致するものではなく、多少、生涯学習推進センターオリジナルな部分があります。一日の受付開始は午前8時30分からですが、予約は施設におりますホール端末を利用しても、自宅のパソコンを利用されても同じような申し込みができるようになっております。現在はこのシステムを利用しない方法で受付しておりますが、公民館等と比べますと、申し込みが殺到して早い者順になってしまうという状況は今までもありませんでしたので、丁寧なご案内をしてから申し込みをしていただいても、ほぼ希望のところに入れると思います。

※ 冨田委員長の採決により、出席委員全員が賛成し原案どおり可決された。

(質問があった資料については、届き次第、説明する。)

●議案第11号 平成24年度教育費予算(9月補正)について

資料に則り、沼田芳行学校教育部教育指導担当主幹から説明がなされた。

以下、質疑。

(守谷委員)

色々なところから寄付が来ると思うのですが、YMCAさんからは毎年また

は定期的に寄付をいただいている経緯があるのでしょうか。

(沼田学校教育課主幹)

これまでに平成18年度から23年度まで、各5万円の寄付がございました。
なお、平成21年度はYMCAさんからではなく、「よつばくらぶ」さんからの寄付でございます。

(京谷委員)

寄付に関しては、いくら以上がこのように補正予算の対象となるのですか。
少額でも寄付があれば、直後に補正しなければならないのですか。

(北教育総務課長)

通常は、物品の寄付をいただいた場合には、議会に諮ることはいたしません
が、現金でいただく場合には少額であっても、歳入・歳出という形で、議案
に載せるということになります。

(京谷委員)

補正予算を組むのは年2回ですか。

(北教育総務課長)

市議会が開催される時になります。市議会の定例会が年4回ございますので
その中でお諮りするということになります。

(京谷委員)

例えば少額な場合、まとめて補正することはできないのですか。その都度補
正することで、それに付随する費用の方がかかってしまうことがあるのでは
と疑問に思ったもので。

(北教育総務課長)

寄付があつて、そのお金を使いたいと考えた場合、なるべく早く手続きをし、
歳入に組み込んで、歳出を行ないたいという内容を議会にお認めいただいた
ほうが、速やかに次の手立てがとれるということになります。

※ 富田委員長の採決により、出席委員全員が賛成し原案どおり可決された。

【守谷委員長職務代理者退出】 【関係者以外退室】 午後1時50分

●議案第12号 所沢市教育委員会委員の辞職について

資料に則り、北教育総務課長から説明がなされた。

《 削除 》

※ 富田委員長の採決により、出席委員全員が賛成し原案どおり可決された。

【守谷委員長職務代理者】 【関係者以外】 入室 午後1時54分

(山寄教育総務部長)

先程、吉本委員、京谷委員からいただきました質疑に対し、回答が整いましたのでご報告させていただきます。

(則武生涯学習担当参事)

使用料ということで、いわゆる歳入ということでございますが、平成23年度は121万4000円ほど収入がございましたが、これは5室だけの使用料になります。そのほかに目的外使用という項目がありますが、これは普段、貸し出さない部屋を貸し出すことによつての目的外使用料としての収入になりますが、こちらについては平成23年度111万円ほどの収入がございました。

8 協議事項

●教育委員会の事務事業に関する点検評価について

資料に則り、市川教育総務課主幹兼教育企画室長から説明がなされた。

以下、質疑。

(富田委員長)

3ページの体系図についてですが、基本目標1の中に(1)から(7)までありますが、例えば「確かな学力の育成」というものが上から4つ位まであります。これは横に見ていくとわかりにくいのではと思います。そのあたり工夫ができませんでしょうか。

基本目標3 健やかな体の育成の中で「児童生徒体力向上推進委員会交付金」と4ページ基本目標1 家庭・地域の教育力向上の中の「校区子ども会育成交付金」について、他は事業と書いてあるものが多いのですが、交付金では違和感があるようなので、名称を支援事業等に直すことができないのか

確認したい。

それから、計画の段階で話しておけば良かったのですが、ここにある学校評議員設置事業については、設置するための事業ではなく、すでに設置したものを活用・機能させるものだと思う。設置事業というのは、まだ設置されていないところがある場合にはそれでも良いと思うが、そうでなければ設置という言葉は気になるのですが。評議員事業ということで設置を取っても良いのかなと感じます。

公民館の機能充実というのは、公民館省エネ改修事業や下水道整備事業があるのですが、他に学習の場合であれば、環境の整備や施設・設備の充実であればわかるような気がするのですが、これらの括り方がどうなのかと思います。

子どもの読書活動の推進ですが、23年度においては主な事業というものはないのでか。

以上について確認しておきたいのですが。

(市川教育総務課主幹)

最初にございました3、4ページの主要施策と平成23年度の主な事業の記載についてですが、こちらについては一度検討させていただきたいと思います。それから、事業の名称で、交付金という記載に関してですが、これについては平成23年度所沢市教育行政推進施策の内容をそのまま使わせていただいたものでございますが、事業名につきましても次の推進施策作成の際に検討させていただきたいと思います。

(仲所沢図書館長)

子どもの読書活動の推進につきましては、4ページをご覧いただいた通り、主要施策の中に記載されておりますが、右欄の23年度の主な事業の中に記載されておりますのは全て、(1)図書館サービスの向上に係る主要事業でございます。これについては本編の42ページから43ページをご覧させていただきたいと思います。図書館サービスの向上につきましては、広範な取り組みであり、大きな枠組みでございますので、こういった様々な事業を挙げております。一方、子どもの読書活動の推進につきましては、これ自体がひとつの事業というように捉えておりまして、各関係部署や教育現場、家

庭や団体で読書活動推進のために活動していただいておりますが、それぞれ個々の取組みを事業という形では掲載してはございません。こうしたそれぞれの現場における様々な活動や取組みにつきましては、昨年度中、4回の推進連絡会を開催しまして、個々の進捗状況や現状、成果について報告し、意見交換などを行なって連携を図っています。

(平塚学校教育部長)

平成23年度の主な事業の中で、4地域に信頼される学校づくりの中の学校評議員設置事業についてですが、学校評議員は再任を妨げないことになっております。毎年度、学校評議員が校長から推薦され、教育委員会が委嘱をしているということでございまして、単年度ごとに設置しているような形態になっている関係から、このような名称になっております。名称等につきましては、ご意見等を踏まえながら検討していきたいと思っております。

(吉本委員)

これは24年度版で、これは毎年出している訳ですよ。その中で1の評価を受けているものがありますね。例えば体育施設や図書館の事業ですが、これらは前年や前々年はどうだったのか、わかりやすくしていただければと思うのですが。2年、3年続けて予算が行き届いていない場合があるので、何らかの方法で予算が向かうようなことを考えていただければと思うのですが。特に総合運動場の施設を見ていて、ずいぶん古くなっていたり、今だとこれぐらいないといけないのではという設備がほとんどないような状態で、ただ広場があつて線を引いてその中を使っているという感じで、もう少し整備に対して前向きに考えていることが見えるような形にいただければと思います。

(京谷委員)

子どもの読書活動の推進ですが、学校環境の整備では具体的にどのようなことを考えていますか。今の子どもたちは部活動が忙しく、またテレビや読書への関心が薄れること、塾へ行って時間が制約されたりなどの理由で、私達が子どもの時のように、本を借りて毎日読むというような環境が整わないと思うのですが、そういう施策として読書環境の整備を学校の中で時間を持つということなのでしょうか。

(仲所沢図書館長)

子どもの読書活動の推進につきましては、所沢図書館と学校図書館を所管する学校教育課の両方が事務局となっております。所沢図書館では、おはなし会や学校に本を貸出す団体貸出、各小学校を訪問して本の紹介をするブックトークといった様々な学校連携事業を行なうことで、子どもたちに読書の楽しみを知ってもらい、読書環境の整備を図っていきたくと考えております。また、先程少し申し上げましたが、子どもの読書活動推進連絡会というものを設置しまして、昨年度は4回程開催しましたが、小学校、中学校あるいは幼稚園等の学校教育の側からも、また、公民館、生涯学習推進センターといった社会教育の現場からも担当者が参加しております。それぞれの現場でどのような事業や取組を行なっているか、進捗状況や成果などを報告し合って、意見を交換したり、情報を共有したり、調整を図ったりすることによりまして、各所管が連携を図りながら子どもの読書環境の整備に向けた取組みを進めているところでございます。

(沼田学校教育課主幹)

学校図書状況でございますが、事業提言にもございますように読書活動の推進に取り組んでおります。先程、京谷委員から部活動等で忙しいのではとのお話がありましたが、中学校におきましては司書補助員を全校に配置しており、図書館の環境については以前に比べると非常に整ってきたと感じております。それから、ほぼ全校で朝読書等の活動を推進しておりますので、子どもが本に親しむ環境というのは以前に比べるとできていると思います。また、団体図書貸出制度や学校連絡便等を活用して、小中学校と図書館との連携も図っておりますので、教科の調べ学習や総合的な学習の時間におきまして連携が図られているところでございます。

(京谷委員)

読書活動の推進で、課題と今後の方向性というところに学校図書標準の達成率100%の学校がずいぶん少ないように思うのですが、それで方向性を読むというのはどうかと思うのですが。

(平塚学校教育部長)

学校図書標準の達成状況についてですが、学校図書館に置かれている本は

古くなりますと廃棄する関係もございます。思い切って廃棄した時などは数字も少し下ってしまう状況になります。学校では学習指導要領の内容ですとか、今後の学校教育活動の内容等を考えまして、計画的に廃棄や新規購入をしておりますので、必ずしも毎年増えていく状況ではなく、多少上下動していることになります。

(守谷委員)

評価が有効性、必要性、方向性という表現の方法は、これを始めた時はかなり画期的な評価の方法だったと思うのですが、重要な事業についての評価ですので、ほとんどが5か4になっていてみんな同じようになると思うのですが、差別化という大変ですがちょっと力点のおき方がかえって見にくくなっているのかという気がします。では、何か対案はと言われると案がある訳ではないが、そのあたりについてもご検討いただければと思う。

(冨田委員長)

非常に努力されて、すばらしいものにまとめていただいたので、だいぶ見やすくなった。1ページで見られるというのは以前に比べると数段の進歩が見られるのではと思います。指標の達成状況についてもパーセントが出ていますが、これもわかりやすい印象を持ちました。それから51ページ上段の教育相談に関することですが、学校が不登校等で困っている場合、退職校長会の女性部の方から、何か手助けができないかという話を聞いたことがある。経験をお持ちの方をボランティアとして各学校に紹介できるような体制を考えられたらと思う。所沢は相談する場所がたくさんあり、大学の先生から教員までが相談できる幅広く充実した内容なのですが、さらにきめ細かくするために、経験をお持ちの相談員をボランティアとして検討してみたらという声をいただいたことがある。そのあたりも情報として入れさせていただきます。

それからこれは事業に対する評価ですよね。そのため、かなり予算もついていて、目に見える効果があるのですが、先日市議会で質問された時、安全面においてあってはならない事故が起こった場合、ソフト面での事業として、今までの失敗を生かして再発させないという安全面の中身が大事だと思う。不審者等に対する予算は重視されているのですが、子どもがケガ

をしたりまた、ひやっとしたり、どきっとしたりした時が一番それを感じ取って未然に防ぐということが大事だと思う。事故が起きないように中身の学習・研修等を事故防止の観点で評価に組み入れられればいいと感じています。これは意見として述べるので、検討していただければ、今すぐに答えが欲しいというものではありません。

(平塚学校教育部長)

貴重なご提言をありがとうございます。安全・安心につきましては、防災教育関係であれば、子どもたちに自ら危険を予知して回避する能力を育て、それぞれの判断で危険を回避できるよう避難訓練を含めさまざまなことを行っております。また、交通安全につきましては、スケアード・ストレート技法と申しまして、実際にスタントマンが事故に遭うような場面を見ることによって、あるいはそれに近い状態を子どもたちが観察することによって、意識を育てていくということは、一部の学校ですが行なわれています。子どもたちの発達段階ですとか様々な生活体験がございますので、今後その点を踏まえながら、事業及び評価について検討していきたいと思えます。

(富田委員長)

一番大事なことは個人が危険を予知して自分で判断できるということですが、組織の中に、以前起きた事件・事故が風化していかないように、組織として以前の卓球台の事故のように、なぜ防げなかったかと言われるのですが、そういうことがあったら他の学校にも事実として生かせるようなものを伝えていくとか、人が入れ変わると薄れてきたりすることがある。「ひやり」や「どきり」に事故が潜んでいると思うのですね。もっと感受性豊かに受け取って防いでいかないと、実際に事件や事故が起きてしまったということになると大変なことになるので、学校では指導していると思うのですが、学校の中で今までのことを絶えず思い起こして、風化しないように努めていただければありがたいと思えます。

(平塚学校教育部長)

ただいまの件につきましては、校長会や学校管理訪問、日常的には通知等で学校教育課あるいはスポーツ振興課から事故の未然防止についてお願い

しているところです。委員長がおっしゃっているのは、ひやっとした、はっとしたという小さい事故がたくさんある時は中くらいの事故が発生しやすい、中くらいの事故が発生しやすい時には大きな事故が発生する可能性があるということだと思っておりますが、それらを踏まえ、事例を元に校長先生にもお伝えしていきたいと思っております。日頃もお伝えしておりますが、工夫を重ねて生かせるようにしていきたいと思っております。

(富田委員長)

よろしく申し上げます。

(京谷委員)

文化財の保存・活用という項目があるのですが、実際に中学生はこういう所を見学するということはしていないのでしょうか。自分たちが中学生の時はこういったところを見学に行ったり、県の重要な文化財を見に行ったりしたことを今でも覚えているのですが、このようなことはやっているのでしょうか。

(富田文化財保護課長)

今のお話に該当する事例といたしましては、市内に3つあります民族資料館へ小学校の授業の一環として、団体の見学を積極的に受け入れておりまして、主に地元の保存会の会員が生徒の見学案内をしております。また、埋蔵文化財調査センターに市内で発掘した土器や石器の展示もしておりますので、学校からの要望があれば団体での見学もできるようになっております。

(沼田学校教育課主幹)

小学校へ出張授業で来ていただいたり、中学校の社会科の時間に土器を持って来ていただいてご説明をいただいたこともあります。また、職場体験というものがありますが、埋蔵文化財調査センターへ出掛けて、職員の方と一緒に遺跡を掘るということもございます。

(富田委員長)

あまりマイナス面だけに向けられてしまうと、これをまとめた良い点も言わなければならない、やる気が落ちてしまっただけではいけないので、素晴らしい点も指摘していただけるとありがたいのですが。

(守谷委員)

全体として所沢の教育というのは学校教育も含めてレベルが高いと感じます。体系図を見ていても太字になっているところがたくさんありますし、それに対しての評価、人数や予算はどれくらいかかったかも行レベルで算出されておりますので、大きな資料になるのではないかと思います。ぜひ継続していかれることを希望します。

(吉本委員)

こういうものを積み重ねていくことによって、まずひとつの資料としてやりとげるものになるのでしょうか、毎年毎年同じものにならないように気をつけていただいて、でも大変だと思います。毎年作るということは、色々検証していきながら所沢市の教育行政というものがより充実していきけるように頑張っていたいただきたいと思います。

(京谷委員)

指標の達成状況のところ、ちゃんと達成できたかどうか評価されていまずし、不登校などは数値にするのが難しいと思って見ていたのですが、このへんはやむを得ないものなのでしょうね。これを見ると去年よりさらに目標値は大変なのかなと思います。

(佐藤教育長)

53ページにあります大学の先生方のまとめのところで、概ね現在の所沢の教育行政が順調に推移していると評価いただいているのですが、私は校長会や事務局職員にも常に言っているのは、吉本委員も言われたように、経年変化をすぐに見なさい、5年間、あるいは3年間の経年変化を見ていく中からという話を常々しておりまして、なるべくそういう方向になってきていることには良かったと思いますけど、まだ委員からのご指摘もあるように、そういうものそのものが作られていないこともございますので、費用対効果を考えますとチェックのところがよくできないと更なるアクションへ入れないということは言われていることとございますので、事務局のリーダーはよく考えて、今後ともご努力いただきたいと考えております。

(富田委員長)

今後、各委員の意見等を踏まえた対応をよろしく申し上げます。

9 報告事項

- 第3回ところざわ星空フェスティバルの開催について（生涯学習推進センター）
- 放射線量の再測定結果について（学校教育課）
- 市内の生徒指導状況について（学校教育課）
- 平成24年度所沢市中学生海外文化交流派遣事業状況報告について
(学校教育課)

10 その他

- ・教育委員会8月定例会：8月29日（水）午後1時30分～ 602会議室
※後日、会場は604会議室へ変更
- ・教育委員会9月定例会：市議会第3回（9月）定例会の日程と調整中ですが、
事務局案として9月26日（水）午後1時30分～
602会議室を予定

11 閉会 午後2時46分